

学校運営方針		学校運営計画（4月）			評価	
昨年度の成果と課題		人間教育に主眼を置き、将来、国家・社会に貢献できる人材を育成する。 年度重点目標	具体的目標			
学校創立以来本校は、高い進学実績や、先進的英語教育の研究開発等多くの実績を積み、地域の信頼を築いてきた。平成29年度にはSSHの取組が認められ内閣総理大臣賞をはじめ多くの賞を受賞した。今後は文武両道を標榜する進学校として、生徒、保護者、地域の期待に応えるべく次なるステージに向けた学校づくりを展開することが求められると考える。また、「鍛ほめ福岡メソッド」を実践し、生徒の志の実現に向けていかなる困難にもチャレンジする気概を涵養し、生徒に自信をつけさせ、自立した人材の育成を目指す。		1 教育活動の充実 校訓を軸としてあらゆる教育活動において「社会を生き抜く力」を培い、心身ともに逞しく、高い知性と豊かな人間性を備えた生徒を育成する。この目的を達成するために日々充実した教育活動を展開し、自己実現と社会貢献を目指して、生徒一人一人の進路目標を達成させる。また、高大接続システム改革や新学習指導要領をはじめとする教育改革の動向を注視しながら、新しい時代にふさわしい教育内容・教育方法を総力をあげて探究し、創造する。	①質の高い授業の実践と各教科の協働体制等を構築し、授業改善を推進する。 ②英語科を軸とした英語教育と数理コミュニケーションコースを中心としたSSH研究開発による理数教育の充実発展を図る。 ③生徒の主体的活動を推進し、全職員の共通理解と協働体制のもとに、毅然とした態度で日々の生徒指導を徹底する。 ④第一志望の進路実現を目指す。 ⑤自他を敬愛・尊重する人権教育の進展を図り、「いじめ」をはじめとする人権侵害を撲滅する。 ⑥保護者・同窓会・地域との連携の強化と広報活動の推進			
		2 特色ある学科・コース 本県高等学校を牽引する「英語科」を軸とした英語教育や「普通科数理コミュニケーションコース」を軸としたSSH研究開発による理数教育を両輪として教師力と組織力を高めることにより、学校全体の普通科教育の充実発展をめざす。				
		3 「学校力」の向上 地域とさらなる連携を図り、地域に貢献する開かれた教育活動や教育成果の地域への積極的な情報発信を通して、地域に信頼され、期待される「新たな伝統校」をめざす。				
評価項目	具体的目標	具体的方策		評価（3月）		次年度の主な課題
特色ある学校づくりのための『道』『学』『志』	道	1 礼儀を重んじ、感性に富んだ心豊かな人間の育成。	① 人格の陶冶を求め、校則の遵守を徹底し、基本的な生活習慣を確立させる。 ② 世界的な文化や歴史の学習を推進し、グローバルな視野を育む。			
		2 伝統や文化を尊重し、国際理解・異文化理解の促進。	① 生徒の自主性を育む文化的・体育的行事を推進する。 ② 校内清掃活動の徹底と地域への奉仕活動を推進する。			
	学	1 基礎基本を踏まえ、充実した授業内容による勉学意欲の高揚。	① 新入生に対する高校生活導入指導の充実を図る。 ② 授業・課外・土曜日に基礎力と応用力を強化する。			
		2 個性を生かす教育や進路に応じた的確な指導による、向上心の育成と学習習慣の確立。	① 国際理解教育を学校全体で推進する。 ② 充実した進路指導と自己実現への指導を徹底する。			
	志	1 規律ある生活の中で、責任感や連帯感を育て強い意志力と自律心・自己教育力の育成。	① 様々な体験を通して、社会に貢献できる人材を育てる。 ② 集団行動の意義を理解させ、積極的に推進する。			
		2 部活動等体育的文化的行事に積極的に取り組み、強靱な身体と不屈の精神の育成。	① 文武両道を推進し、部活動への積極的な参加を促す。 ② 地域清掃等、ボランティア活動を積極的に推進する。			
教育課程	1 SSH事業を全学科・コースへ広げるための教育課程の検討。	① SS科学探究を軸として、各教科・科目の継続性・系統性を考えた教育課程を研究する。 ② 探究活動における評価方法、授業の形態や指導方法、指導人数等を検討し、教育課程の再検討を行う。				
	2 新学習指導要領へのスムーズな移行を念頭に、教育課程について、積極的に柔軟な研究の推進。	① 「新テスト」導入に対応する教育課程の検討を進め、進路部と連携し、生徒のキャリアアップを目指した教育課程の編成を行う。 ② 新学習指導要領に対応する教育課程を、教育課程検討委員会を中心として検討し、より特色のある教育課程づくりに努める。				
教科指導	1 全職員で授業改善に取り組み、生徒の対話的で深い学びを支援する。	① 日常の授業や生徒の授業評価等を基に生徒のニーズに応じた授業の在り方を把握するとともに、授業内容や方法を検討し、わかる授業の充実を図る。 ② 授業改善プロジェクトチームを中心として、主体的・対話的で深い学びを研究し、授業研究会等とおして生徒の深い学びの支援が行える体制をつくる。				
	2 生徒の進路希望に応じた質の高い授業を実施するための、個々の教員の指導力向上を目指す。	① 進路部と連携し、大学入試等の進学情報を注視し、進路情報セミナー等へ多くの教師が参加できるような体制を整える。 ② 教科指導力の向上を目指し、授業研究会を行い、校内だけでなく校外からの意見も取り入れた。また、教科研修会を実施し、教科内の教員相互の連携を図る。				
	3 深い学びに繋がる授業の実施を目指して、教科を越えた連携を推進し、学校教活動全体の拡充を図る。	① 授業研究会等の機会に教科を越えた授業参観を実施し、教員相互の研修を行う。 ② イマージョン教育等、複数の教科領域を合わせた授業を積極的に導入する。				

SSH研究開発	1 全教科・科目における主体的・協働的な学びを重視した授業と評価の改善。	① 学務部及び授業改善PTと連携し、能力評価法（パフォーマンス評価）の実践的導入を継続し、具体的課題の検証と評価観点（規準）と評価基準の更新を推進する。 ② 学務部及び授業改善PTと連携し、教科指導の改善とパフォーマンス評価の改善の一体化を推進する。			
	2 全教科・コースで実施する探究型教科・科目の実践と能力評価法の一体開発。	① 数理コミュニケーションコースと連携し、学校設定科目『SS科学探究』の更なる充実を図る。 ② 進路部、学務部及び課題研究PTと連携し、学校設定科目『SS総合科学探究』の研究・開発及び実践を行う。			
	3 高度な化学研究を推進する科学技術人材の育成プログラムの開発。	① 大学及び研究機関等と連携し、「環境科学探究講座」「先端科学研究講座」「先端科学研修」等を実施する。 ② 数理コミュニケーションコース及び科学系部活動と連携し、科学コンテストや学会ジュニアセッション等への参加生徒数及び入賞数を増やす。 ③ 課題研究発表会等での英語による研究発表を推進する。			
	4 SSH事業成果に関する広報活動のより一層の充実。	① 学校行事を活用してSSH活動の広報に努める。 ② 広報課と連携し、保護者や地域との連携を深める生徒研究発表会や研修報告会の実施と「SSH news」の発行を推進する。 ③ 「SSH研究開発報告書」「生徒課題論文集」等の作成と配付を行う。			
生徒指導	1 礼節を重んじ品格ある生徒の育成。	① 挨拶・返事の徹底。各学年と連携して指導する。 ② ロッカーを有効活用し、貴重品管理、教室整備の徹底。			
	2 逞しく、リーダーシップを発揮できる生徒の育成。	① 生徒が主体的に運営する行事にし、次年度さらに発展する行事作り。 ② 部活動集会を実施し部活動生のリーダーシップを喚起する。			
	3 保護者・地域との連携の強化。いじめの早期発見・再発防止。	① 地域や学警連等が主催する活動を通して、地域の実態を知り本校が担うべき役割を明確にし、生徒指導の一助とする。また、ホームページを積極的に活用し、広報活動に努める。 ② 毎月アンケートを実施し、いじめの早期発見に取り組む。生徒支援委員会（兼いじめ対策委員会）を中心として、全職員により学校の基本方針の検証を行い、必要に応じて見直す。			
保健・安全指導	1 心身における健康の保持・増進。	① 身体計測や各種検診活動を円滑に行い、迅速な疾病勧告や疾病予防に役立てる。また、行事における救護及び緊急対応の組織化を推進する。 ② スクールカウンセリングの設定時間等を見直し、生徒・保護者・教員が有効に活用できるように工夫する。			
	2 環境美化の向上。	① 資源再生及びゴミ処理の方法を理解させ、美化委員会との連携を図りながらゴミの減量化（昨年度5%減）を目指す。 ② 清掃活動が円滑に進められるように、年に2回（5月・12月）の清掃用具の調査を行い、用具の一斉補充を行っていく。			
教育振興 企画庶務	1 キャリア教育の推進。	① 生徒達の進路決定の参考となるようにさまざまなジャンルの卒業生を招聘し、講義を実施する。			
	2 PTA・同窓会との連携強化。	② それぞれの活動を把握し、お互いが連絡を密にしながら、諸行事・諸事業が円滑に運営できるようにする。			
	3 行事の円滑化・効率化。	① 校内外の行事が計画的に実行・運営できるよう、的確な文書作りを行う。 ② 関係分掌と早い段階から連絡・調整する。			
進路指導	1 職業観の寛容と進路選択力の育成。	① 進路講演会、社会人出前講座等の進路行事の充実を図る。 ② SS科学探究・SS総合科学探究と連携し、学年に応じたキャリア教育を計画的に推進し、さらなる充実を図る。			
	2 進路達成のための学力養成。	① 朝課外での出席率を向上させ、授業の充実を図る。 ② 放課後課外・長期休業課外・土曜セミナーの充実を図る。			
	3 教師の進学指導力の向上。	① 適切な進路情報を発信し、情報の共有に努める。 ② 実力考査の作問や進路検討会を通して、進学指導力の向上を図る。			
広 報	1 積極的な広報活動の推進。	① 中学校や学習塾と連絡を密にとり、情報収集する。 ② 出前授業において、効果的に宣伝をする。			
	2 生徒による広報活動の推進。	① 生徒が中学校や学習塾を訪れたときに、本校の良さを宣伝するように指導する。 ② 進路相談事業・学校見学会・オープンスクールにおいて、生徒会を中心とする本校生徒が一層活躍できるようにする。			

英語学科	1 英語科の特色ある行事と授業を生かした国際理解への関心や向上心の向上。	① 福岡市姉妹都市委員会をはじめ、海外の短期留学生の受け入れを年2～3回実施し、英語科生徒が海外の生徒と授業や学校生活を送る機会を持つ。 ② 文化祭での英語劇やALTとのイングリッシュ・キャンプ、小学生を招くクリスマススキットを実施する。 ③ 英語ディベート大会やスピーチコンテスト、エッセイコンテストに積極的に参加し、また熱意ある高校生との交流を図る。				
	2 英語専門科目の指導の共有を通じた生徒の学習意欲・学力向上。	① 英語表現や時事英語などの専門科目を通じて、英検準1級・2級合格、スコア型試験のTOEIC(LR)、TOEIC(SW)、GTEC、TEAPなどの4技能型資格取得を目指す。 ② ALTとのマンツーマン指導やJTEの個人指導を通して、スピーチ、暗唱、ディベート、エッセイの大会に積極的に参加し入賞を目指す。 ③ 東京外国語大や難関大学に進学した英語科卒業生の卒業生講話を実施する。				
	3 英語科広報活動の充実。	① オープンスクールでは英語劇や英語の授業を体験してもらい、現役生と中学生が触れ合う機会を持つ。中学校での出前授業ではALTとのTT授業を実施する。 ② 英語科ホームページに英語科行事やNZ語学研修など、季節ごとにアップデートする。				
数理 コミュニケーション	1 コース独自の行事の充実を図るとともに、校内外への広報活動を推進する。	① 文化祭のコース企画を一新し、3学年合同で実施する。 ② コース独自の大学出前講義を年2回実施する。 ③ HPのコースのページを月に一回更新する。 ④ コース独自の広報活動を充実させる。				
	2 進路実現へのサポート体制の充実と進路実績を向上させる。	① コース独自の大学出前講義を年2回実施する。 ② 研修の事前・事後活動(ポスター発表等)の内容を充実させる。 ③ コース会議での過年度模試成績の分析等を実施する。 ④ 英語科教員と協力し、積極的な英語検定の受検を促す。				
研修・図書	1 全教科における授業方法と評価方法の改善。	① 教科研修の内容の整理と充実を図る。 ② 教科指導におけるICT活用の推進をする。				
	2 生徒の主体的・意欲的な学習活動や読書活動の充実。	① 生徒および教員の図書館利活用の増加を目指す。 (平成29年度授業での図書館利用：72時間) ② 年間貸出数の増加を目指す。 (平成29年度の生徒の貸出数：2,874冊)				
情報化推進	1 教育活動に関わる情報の積極的発信。	① ホームページを定期的に更新する。 ② 39mail を積極的に活用し、有効な情報提供に努める。				
	2 校内ネットワークの管理及び情報化の推進。	① 情報セキュリティー及びLAN並びにネットワークの管理を徹底する。 ② ICTをさらに活用した「分かり易い授業」を推進する。				

第1学年	1 学校生活を中心とした、基本的な生活習慣の確立。	① 学習と生活の記録を有効活用し、学習習慣の定着をはかるとともに、生活リズムを整え体調管理を常に意識する。 ② 教員間の情報共有を密にし、遅刻、早退、欠席指導を適切に行い、簡単に学校を休まない雰囲気づくりを行う。				
	2 自ら主体的に行動する生徒の育成。	① 学校行事や生徒会活動など、生徒自身が考え、主体的に行動できる場数を多く設定する。 ② 自らの将来を、他人任せにせず、生徒自身が決定できるように、進路指導課と協力しながら二者面談、三者面談の充実に努める。				
	3 教師間の連携をさらに強め、教師相互の協力体制の構築。	① 各分掌や学年業務を、個々の教師が責任をもって行うとともに、学年団で連絡調整を図りながら、協力して業務を遂行する。 ② つねに自己研鑽に励むとともに、他教師との協力、情報共有に努め、生徒の進路実現に最善を尽くす。				
第2学年	1 自発的に行動し、責任感のある生徒の育成。	① 体調管理を意識し、健康管理に努めることで、欠席をしない意識と、生活リズムを作らせる。(目標 1ヶ年皆勤250名以上 3ヶ年皆勤180名以上) ② 学習環境を整備させる。ロッカーに教科書・ノートを置かない指導を徹底する。				
	2 自ら積極的に学ぼうとする姿勢の育成。	① 「生活と学習の記録」(学習日誌)を有効的に活用し学習計画を立てさせる。 ② 教科内での協議を充実させ、教員間の連携を密にし、意思疎通を図った上で指導力を向上させ、生徒の能力の伸長を図る。				
	3 将来の具体的な目標の早期設定。	① 教員間における進路に関する情報共有、意見交換を確実に行う。 ② 模試を活用した事後指導に重点を置き、将来の進路実現に必要な応用的思考力、表現力を身に付けさせる。				
第3学年	1 規律と責任を重んじ、自らを律し、最上級生として下級生に範を示すことのできる生徒を育成するとともに、逞しさの中に思いやりの心を持った生徒の育成を目指す。	① 健康管理への意識を高め、安易に欠席しない姿勢を育成する。 ② 日常の挨拶を徹底するとともに、規範意識を高め、周囲の状況に応じた適切な言葉づかいや態度がとれるようにする。				
	2 最上級生としてリーダーシップの取れる生徒の育成。	① 集団の中で自分の役割を自覚し、集団に貢献できる生徒の育成。 ② 全校生徒の先頭に立って、学校行事に取り組み、香煙祭、体育祭等の行事を成功させる。				
	3 第1志望合格を目指して、諦めることなく最後まで粘り強く努力し続けることができる生徒の育成。	① 授業を中心とした学習習慣を大切に、学習の質の向上と量の確保を図るとともに、主体的な学習を行う姿勢を養う。 ② 日々、進路意識の高揚を図るとともに、模試の成績に一喜一憂せず、目標に向けて努力できる精神的な強さを養い、受験を通して人間的にも自分を成長させる。				
人権教育	1 人権意識を高めあう人権学習の創出を図る。	① 各学年とも、特設授業ごとにチームを作り、全員で授業案の作成に取り組むようにとり図る。				
	2 指導者としての科学的認識と実践力の向上を図る。	① 積極的に研修に参加し、指導者としての資質の向上を図る。				
	3 職員の人権意識の向上に努める。	① 人権の情報の提示や、人権研修会の告知などにより、職員の人権意識を高めようとする。				